

研究タイトル:

イギリス学校教育の近代化



氏名: 久保田 圭司 / KUBOTA Keiji E-mail: kubota@gifu-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 修士(教育学)

所属学会・協会: 教育史学会、日本西洋史学会

キーワード: 近代化理論、学校教育史、市民革命

技術相談
提供可能技術:

- ・近代教育学の歴史と今後
- ・高専生のための科学技術倫理
- ・思考・価値観形成の一環としての宗教

研究内容: 近代教育学の現状と復権、学校教育改革の前提確認

近代教育学の特徴として、大人が子どもを陶冶する強制的役割と、子どもが自らの特性に応じ自己創造する過程を大人がサポートする援助的役割という2種類の機能を強調する点があります。後者の児童中心主義を打ち出した人物には諸説ありますが、18世紀フランスのルソーとする説が有力です。彼はフランス革命期の思想家ですが、戦後日本は市民革命思想に近代思想の原点をステレオタイプに求めていたという批判もあります。また児童中心主義自体が共同体の衰退や「個人」主義の蔓延と共に「教育荒廃」の主因と目されることもあります。

私の関心は「近代化」思想自体が終焉を迎えたとする指摘すらある中で、現代の学校システムを生み出してきた根源的価値観を見出して、少子化などに代表される社会変動を受ける形で改革を要求されている学校教育の歴史的前提を追求することにあります。

世界史において近代化のモデルとされたのはイギリスですが、通説とされた伝統史学が成立したのは19世紀のことです。伝統史学に対する批判から近世史の再検討を志向する研究を修正主義と称しますが、これが最初に登場した1970年代にイギリスで労働党政権からサッチャーイズムへの転換があったことは無関係ではないと考えます。このような研究史追求も続けています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	